

2013年

1月19日(土)

14:00~16:00 (13:30 受付開始)

参加費:1,000円

第1部

医療との上手な付き合い方
～医師としての立場から～

講演者: 杉山晃一

第2部

病気と自然治癒力について

講演者: 寺山心一翁



身体の声に聞く

～病気と自然治癒力について～

会場: 岡山国際交流センター
7階 多目的ホール

〒700-0026 岡山市北区奉還町2丁目2-1
TEL:086-256-2905 FAX:086-256-2226



岡山国際交流センターは、JR岡山駅から徒歩5分のところにあります。
一般駐車場はございません。恐れ入りますが、センター東隣の岡山駅
西口パーキング、または最寄りの駐車場をご利用ください。

病気やその治癒についての話は医療者側から啓蒙的に語られるものが大半で、患者側から体験談として語られるものもあるにせよ、それらは病気を悪として克服することが最終的な目標として語られる点で共通しているように思います。

しかし、病気とは一体何なのでしょう?

「たまたま」病気になった人は不幸で、病気にさえならなければ幸福に生きることができるのでしょうか? 本当の治癒とはどういうことなのでしょう?

末期癌からの回復という体験をされた寺山先生は癌になったことに「感謝している」と言われています。それは一体どういうことなのでしょう?

今回寺山先生には現代医学の場でなかなか語られることのない人間が本来持つ自然治癒力について、患者や医者視点を超えて語っていただきたいと考えています。

病気を考えることには「よりよく生きる」ことへのヒントが隠されているのではないのでしょうか? 全ての方々の幸せのために今回の会を開催したいと思っております。

予約をご希望の方はご連絡ください。

当日受付も行います (定員60名)

講演会に関するお問い合わせ / 090-6288-5208 (杉山)

杉山 晃一

寺山 心一翁

1936年東京生まれ。

銀行員だった父の転勤に伴い、小学校4年から中学2年までを岩手県盛岡市で過ごす。後に病を得て宮沢賢治の素晴らしさを再認識するに至るのは、この盛岡時代に父の勤めて参加した「賢治子供会」の影響も大きいと思われる。

早稲田大学第一理工学部電気工学科入学。電気工学科の授業を受講しながらも、1年生のときから大学院の物性物理のゼミや授業を受講し、大学院の学生の実験の助手を勤めて物性物理への研鑽を深めた。物性物理を学んでいたことが縁で、卒業後は（株）東芝に入社し、半導体素子の研究開発や製造に従事した。

37歳のときに東芝を退職。1980年、企業へのコンピュータ導入の指導を主な業務とする「寺山コンサルタンツオフィス」を設立。仕事が多忙を極めていた1984年に右腎臓ガンとなる。

手術、抗がん剤、放射線による治療が続けたが、ガンが肺など他部位への転移でがん末期の状態になり、死を覚悟して自宅に戻ることにした。それ以降は、医師におもねることもなく、自宅で過ごす毎日になった。やがて、ガンに愛を送るという深い気づきを得る。25年ぶりにチェロの練習を再開したのもこの時期である。

その後は、自らの直感に従い、副作用の無い様々な自助療法などを取り入れ、ガンは自然に治癒していった。自分では、からだとの調和をはかりながら、直感的に自分に合う方法を選び、統合的に取り入れていった結果でもあると感じている。

ガンを治そうとしていたときに出会った「ホリスティック」という考え方に共感し、まだガンに罹患している中で、日本ホリスティック医学協会の創設に参画。1987～1995まで常任理事を務め、同協会でマネジメントに関わると共に、日本ホリスティック医学協会の日本代表として海外の学会に数多く参加し、海外と協会とのネットワーク作りをおこなった。

その後、スコットランドのフィンドホーン共同体（現・財団）に招聘されて講演したことが縁で、1988年に評議員に選出された。以来、現在まで継続して務めている。

1999年に出版された『フィンドホーンへのいざない』（サンマーク出版）は、当時まだあまり知られていなかったフィンドホーンを紹介した本として、現地に行ってみたい人達のバイブル的な1冊となった。

1989年からは米国でのアメリカン・ホリスティック医学学会に10年連続して参加。

インドの世界ホリスティック医学・健康会議にも参加し、この2つの学会では講演もおこなった。

1998年以来、毎年6月、アメリカのコロラドで開催されるISSSEEM(サトルエネルギー・エネルギー医学学会)に参加しており、ISSSEEMを始め、海外で多数の講演やワークショップをおこなっている。フィンドホーン財団には20回、イスラエルへの渡航は8回を数える。

がんの回復過程で得た様々な気づきと智慧から「意識の超越理論」を創案し、1996年イスラエルの死海学会で初めて発表した。

2005年に有限会社超越意識研究所を設立。2006年10月には日本教文社から、『がんが消えた』を上梓。

同時期より『心さんの愛と癒しのワークショップ』を3年にわたり20回定期開催。

2007年4月から、朝日カルチャーセンター・新宿で月1回「意識の超越理論」の連続講座が開講、継続中。（2011年4月現在）

また、2009年には、ISSSEEMにおいての長年の功績により、同学会からTHE DOUG BOYD WISDOM KEEPER AWARD を授与された。

2010年4月からNHK文化センター・青山教室で毎月1回、「自然治癒力」の講座が開講し、現在連続講座を継続中。（2011年4月現在）

今、寺山が活動の柱とすることは、愛ある智者を育てること。

私たち一人ひとりが意識を高めることの重要さと、すべての鍵は愛であること、感じる力を呼び戻すことの大切さを説き続け、チェロを片手に、国内外で意識を高めるための講演やワークショップをおこなうとともに、ホリスティック経営コンサルタントなどの活動をおこなっている。

杉山 晃一

1973年岡山生まれ。

2000年に岡山大学医学部を卒業すると同時に岡山大学腎・免疫・内分泌代謝内科学（旧第三内科）入局。愛媛県で研修を終え、2005年より岡山大学に帰局してからは膠原病専門医として岡山大学病院で診療・研究を行っている。

研修時代の体験をきっかけに岡山に帰ってからは精神世界に興味を持つようになり、合気道や瞑想、速読といった活動の研鑽を始めると同時に全国で行われる数々のスピリチュアル・自己啓発イベントに参加するようになる。そうした活動のひとつとして参加した2012年8月のワークショップで寺山心一翁と出会い、西洋医学一辺倒であった診療を見直し東洋医学や統合医療の考え方を診療の場に活かすことを模索するようになる。趣味として幼少期よりバイオリンを習っており、小学生～大学時代にかけて、そして現在もオーケストラに所属して演奏活動を行っている。しかし、実はライブハウスや映画館通いの方が好きであったりもする...